

# 平塚の石仏めぐり

## 13. 豊田編



薬師堂 聖観音

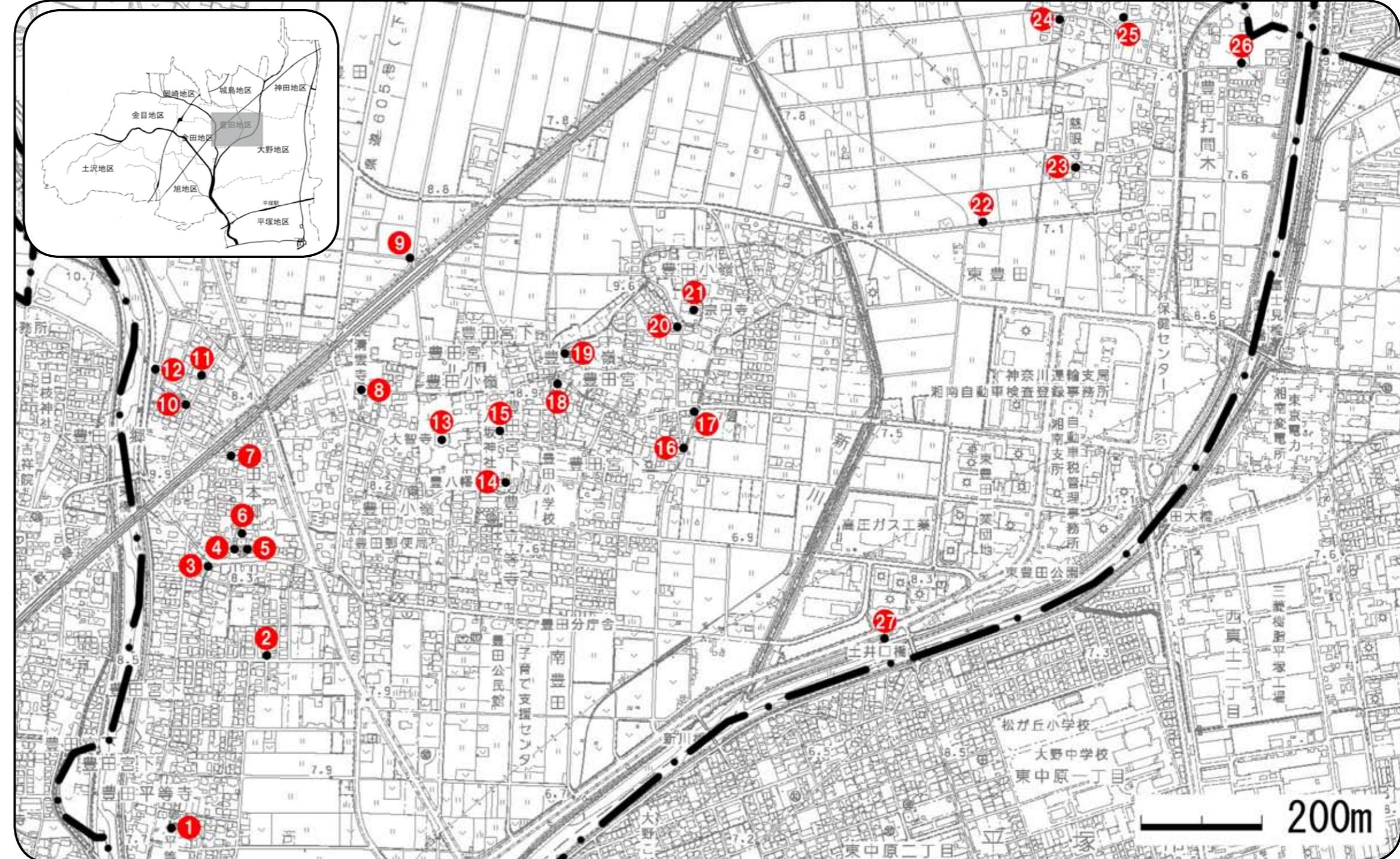
### 豊田の石仏

豊田は市の中核や北東部に位置する地区で、古くからの集落は鈴川と渋田川間の砂丘上にあります。平等寺村、豊田本郷村、宮下村、小嶺村、打間木村の五つの近世村が明治22年に合併し、大住郡豊田村となりました。更に昭和31年に大野町と合併した直後、同年に平塚市と合併しました。

天保年間に編纂された『新編相模國風土記稿』に宮下村八幡宮は豊田庄4カ村及び打間木村の鎮守と記載されています。また戸数は豊田本郷村(豊中、西町、本宿、簣子橋):74戸、宮下村:51戸、小嶺村:29戸、平等寺村:23戸、打間木村:36戸とあります。

簣子橋は表示地図の範囲外のため岡崎地区東部編で紹介しましたが、簣子橋を含む豊田地区の石仏は地蔵36基、道祖神14基、灯籠13基、庚申塔9基、馬頭観音・観音・石祠各8基と続き、合計168基です。

紙面上紹介できなかった2件:⑯現明仁上皇のご成婚を記念し、昭和35年に大会念佛の東組講中が浄財を出し合って建立した、観音堂にある徳本名号塔には上人の足跡も記しています。⑰渋田川右岸の一角に獸靈碑1基と馬頭観音の7基が集約されています。この少し下流がかつて馬捨て場で、その後の河川工事のとき、現在地に移管されました。造立年の多くが昭和初期で獸靈碑には63名の記載があり、農耕に牛馬の利用が盛んになっていたことが伺えます。



豊田の石仏所在地と主な石仏

番号	名称	住所	主な石仏
1	平等寺	豊田平等寺 369	観音、地蔵
2	豊中路傍	南豊田 491-1 東	五輪塔（犬坊塚）
3	豊中路傍	豊田本郷 1814	馬頭観音
4	豊中天満宮	豊田本郷 1726 本宿	道祖神
5	旧法藏院跡	豊田本郷 1729 本宿	地蔵多数、如意輪観音
6	旧法藏院裏	豊田本郷 1724 本宿	二十三夜塔
7	本宿路傍	豊田本郷 1669 本宿	五輪塔
8	清雲寺	豊田本郷 1760 本宿	庚申塔、不動明王・道標、阿弥陀如来、七觀音、地蔵他
9	本宿路傍	豊田本郷 566 南	地蔵
10	西町会館前	豊田本郷 1514 西町	不動明王、石祠、地蔵
11	西町路傍	豊田本郷 1474 西町	聖観音、地蔵
12	西町路傍	北豊田 763 道登	二十三夜塔・道標
13	大智寺	豊田宮下 800 宮ノ越	結界石、六地蔵、地蔵、巡査塔、宝篋印塔、徳本名号塔他

番号	名称	住所	主な石仏
14	豊八幡神社	豊田宮下 550 宮脇	道祖神、地神塔、庚申塔他
15	宮下路傍	豊田宮下 790	地蔵
16	日の宮社	豊田小嶺 506 前原	石祠、日の宮
17	小嶺路傍	豊田小嶺 507	道祖神
18	薬師堂	豊田小嶺 514	地蔵、阿弥陀三尊、観音
19	観音堂	豊田小嶺 377 福正寺	徳本名号塔、地蔵
20	宗円寺前路傍	豊田小嶺 367 上ノ台	道祖神
21	宗円寺	豊田小嶺 322 上ノ台	日蓮菩薩塔、地蔵・万靈塔、地蔵他
22	外記屋敷跡	東豊田 268 道上	聖地碑
23	慈眼寺	豊田打間木 419 広町	六地蔵、地蔵、宝篋印塔、結界石他
24	打間木路傍	東豊田 155 溝前	道祖神
25	打間木路傍	豊田打間木 615 仲川	道祖神
26	打間木路傍	豊田打間木 662 川端	庚申塔、道祖神
27	東豊田路傍	東豊田 640	馬頭観音、動物供養塔

※ 当ガイドマップに記載されている石仏の基數は令和3年集計時点のものです。

#### 石仏めぐりを行う場合の心掛け

石仏は、古来より多くの人々がさまざまな願いをこめて手を合わせ祈ってきたものです。今でも信仰の対象とされているものも多くありますので、見学に当たっては、敬いの心を持って接しましょう。

また、お寺や神社など石仏の管理者がいらっしゃる場合は、石仏を見学する旨一声かけてから見学しましょう。

#### 平塚の石仏めぐり (14. 豊田編)

発行日: 令和4年5月

編集: 石仏を調べる会

発行: 平塚市博物館

住所: 神奈川県平塚市浅間町12-41

電話: 0463-33-5111

## 平等寺の石仏

古義真言宗の寺院で豊田山医王院平等寺です。旧村名は寺号から付けられたといわれています。本尊の聖観音が明治の火災で焼失し、その後は薬師如来（当寺の薬師堂の主尊）になりました。

建久3年(1192)源頼朝が政子の安産祈願に神馬を奉納されたと『吾妻鏡』に記述されるほどの古刹です。

**虚空蔵菩薩** 向かって右の像は、一面六臂の如意輪観音で彫られていますが、最上部には虚空蔵菩薩の種子である「**婆**」が彫られています。地域では「コクーゾーさん」と言っている点を考慮して種別は虚空蔵菩薩としました。

**地蔵菩薩** 左の像は、承応3年(1654)に建てられた、市内で紀年銘のある地蔵菩薩の中では2番目に古いものです。

地蔵信仰は釈迦入滅後、弥勒菩薩が如来となって現れるまでの無仏の間、地蔵菩薩が衆生の延命、安産、育児などの願望に応えて救ってくれるという信仰です。

地蔵に彫られた銘文から、個人の靈魂が悟りを得られ成仏出来ますようにとの願いを込めて造立したものと考えられます。



左 地蔵菩薩(承応3年)  
右 虚空蔵菩薩(年代不詳)

## (地図番号①)

## 清雲寺の石仏(2)

**庚申塔** 大きく「庚申供養」と信仰内容を文字で示し、三猿をはじめ、彫の優れた、明和7年(1770)造立の庚申塔です。台石の左右には講中の文字と15人の名が刻まれています。

**不動明王像がのった道標** 岩座上の不動明王像は、右手に降魔剣、左手で繩索を握り、火炎光背を背負い威厳が漂います。下部道標の正面に「**キ** 不動明王 右糟屋左大山」と刻まれ、右面に「文化十癸酉七月 豊田本郷村」(1813)とあります。左面に「導師福藏院舜」とあり福藏院(真言宗・廢寺)にゆかりを持ちます。以前は大山道と糟屋道の分岐点(豊田本郷駅バス停傍)に建っていました。



不動明王道標  
(文化10年)

**七觀音** あらゆる輪廻からの救済のために、その願いに応じて姿を変えて苦悩する人々を救って下さる觀音菩薩です。銘文に「尼大姉追福」とあり、故人の冥福を祈って文政5年(1822)の造立されました。像容と台石の種字が入れ違っているのは、移設される際に変わってしまったからのようです。市内の七觀音は、岡崎の紫雲寺にもあります。



七觀音(文政5年)

## (地図番号⑧)

## 大智寺の石仏(2)

頭が彫られた人頭杖を持っており、あまり見られない像です。

**宝篋印塔** さらに進み、左手の寄せ墓の奥に、高さ2mを超える重量感溢れる宝篋印塔2基が建っています。



宝篋印塔(左寛永4年、右寛永7年)

## (地図番号⑬)

向かって右側は寛永7年(1630)、左側は寛永4年(1627)に、大智寺を菩提寺に定めて、寺に大きく貢献した半場氏が故人の供養のために造立しました。

基礎部分には、「鳥八臼」という珍しい字が彫られています。減罰成仏を願う意味で、曹洞宗寺院の墓塔にみられます。



徳本名号塔  
(天保12年)

## (地図番号⑯)

## 豊八幡神社の石仏(2)

ありません。残念なことに全体に風化が進み、各部の輪郭が不鮮明となっています。

四臂にはそれぞれ鉢と宝輪が対になり、宝劍と「ショケラ」と呼ばれる着物姿の女人の髪をつかんだ腕が対になっています。ショケラは六臂に多く見られますが四臂でショケラのあるものは平塚で2基しかない珍しいものです。

**道祖神** 向かって左から2番目と右端の石祠が双体道祖神です。石祠構造は流造で内部にいずれも石造舟形の2体の神像があります。

2番目の道祖神は顔の目鼻の輪郭が確認できますが、右端の道祖神は石祠前面の解放面積が大きいためか顔の輪郭が判る程度に風化しています。『大野誌』によりますと8番目の双体道祖神は文化2年(1805)の造立とあります。



豊八幡宮の石仏群 左から5番目庚申塔(元禄5年)、左から2番目と8番目(文化2年)石祠型道祖神

## (地図番号⑭)

## 大庭塚の五輪塔

## (地図番号⑦)

県道61号線と新幹線の交差する南側を約50m西に入った所に2基の五輪塔があります。鎌倉幕府創設前の石橋山の合戦では大庭兄弟4人が源平に分かれ争い、長兄景義(能)と次男景俊は源氏に、三男の景親は平家側の旗頭として四男の保野景久と共に行動をとりました。



大庭景宗、景俊墓塔

## 清雲寺の石仏(1)

## (地図番号⑧)

清雲寺は臨済宗建長寺派で、本尊は釈迦三尊です。徳川家康が、寺内の名水で茶を飲んだことから「お茶屋寺」とも呼ばれます。寺宝として葵の紋章付銚子や椀を所蔵し、本堂の扁額「清雲寺」は白隱禪師の揮毫によるものです。境内には、ここで紹介する石仏の他に、市内に3基ある内の一つである平成13年造立の仁王や文政7年造立の六地蔵、平成4年造立のかわいい七福神など、沢山の石仏に出会えます。



庚申塔(明和7年)

## 大智寺の石仏(1)

## (地図番号⑯)

大智寺は曹洞宗で、景勝山大智寺と号し、天正元年(1573)の創建で、下吉沢の松岩寺の末寺です。昔は禅堂、衆寮などをを持つ大寺で、雲水の出世道場であったと言われています。

**六地蔵** 境内に入った左側に丸彫の六地蔵が並んでいます。造立年代は不詳ですが、像高は台石から約150cmと高く、「十王経」に基づいて配置され、六道名、尊名が陰刻されています。向かって右端の金剛願地蔵は、左肩あたりに二つの人



六地蔵(年代不詳)

## (地図番号⑬)

## 薬師堂の石仏

## (地図番号⑯)

薬師堂は、かつてこの地にあった福正庵の付属堂で寛永年間に建てられました。今は「山越山」の額が掛かる小さな堂で、内部に薬師如来と十二神将が祀られています。



聖観音(元禄15年)

## (地図番号⑯)

## 慈眼寺の石仏

## (地図番号⑯)

曹洞宗のお寺で、本尊は聖観世音菩薩です。享保10年(1725)造立のひときわ大きな地蔵や、「食道樂」著作の村井弦斎の墓などもあります。



結界石(宝暦3年)

## (地図番号⑯)

## 豊八幡神社の石仏(1)

## (地図番号⑯)

豊八幡神社は応神天皇と大塔宮護良親王を祀っています。親王が鎌倉で打ち首になったとき臣下の長尾家の先祖が、首を密かに豊田へ持ち帰ったと伝えられています。

境内八坂神社の階段横に8基の石仏が一列に配置されています。内訳は庚申塔3基、双体道祖神2基、地神塔1基、石祠1基、五輪塔1基です。

**庚申塔** 向かって左から5番目の石仏が元禄5年(1692)造立の庚申塔です。

台石を含めると高さ92cmの庚申塔で、正面に青面金剛立像が陽刻されています。舟型光背で下には左右に雲状の渦巻模様が彫刻されています。足元には岩座がありますが三猿は



庚申塔(寛文2年)

## (地図番号⑯)

## 打間木川端路傍の庚申塔

## (地図番号⑯)

研究者の間では「龍前院型」と呼ばれ、市内には4基あります。

前面を向きしゃがんだ三猿像が特徴で、彫りが深く量感があります。



庚申塔(寛文2年)